

「DFPP」の日本語訳について

DFPP (double filtration plasmapheresis) はご存知のように日本で開発された技術です。これは阿岸鉄三先生が考案された治療法ですが、今回アフェレシスマニュアル第3版を発行するに当たり、この日本語訳について齟齬が生じて参りました。そこで、本学会の理事会としまして、これらの齟齬についてどのように対応するか検討し、阿岸先生ともご相談して参りました。

そもそもDFPPを阿岸先生が最初にご考案された時には「二重濾過血漿分離交換法」という日本語訳にしていられましたが、その後阿岸先生は「二重濾過血漿交換法」という日本語訳もお使いになられています。その後、いつからか「二重膜濾過血漿交換法」という日本語訳が広く使われるようになり、こちらがDFPPの日本語訳として一般化してしまいました。しかし、本来「double filtration plasmapheresis」に「膜濾過」の意味は入っておらず、「二重膜濾過血漿交換法」は正確な日本語訳とは言えません。しかしながら、現状において「二重膜濾過血漿交換法」が一般化し、広く使われているのも事実です。

そこで、学会として、今後「二重濾過血漿分離交換法」「二重濾過血漿交換法」「二重膜濾過血漿交換法」の3つの言葉が同義語であることを認め、このような使い方をさせて頂くことを考案者である阿岸先生にもご寛容いただきました。

しかし、本来は阿岸先生がご考案された技術ですので、学会として阿岸先生に学問上のオリジナリティがあることを認め、先生のご功績を尊重する所存です。アフェレシスマニュアル第3版を発刊するに当たり、阿岸先生には多大なるご迷惑をおかけ致しましたことを心よりお詫び申し上げます。

さらに、昨年発刊致しました用語集(29巻1号)についてですが、用語集には「二重膜濾過血漿交換」となっており、「二重濾過血漿分離交換」「二重濾過血漿交換」は含まれておりません。次回以降に発行致します用語集には「二重濾過血漿分離交換」「二重濾過血漿交換」も加える方向で検討したいと考えております。ここで、用語集は必ずこの言葉を使用しなければならないという絶対的な言葉を掲載したものではないということをお客様には理解していただきたいと思います。用語集はあくまで学会内部で用語を統一するためのものであり、用語集に掲載された用語を必ず使わなければならないということではありません。

本件に関して、学会員の皆様により良く理解していただくため、下記に阿岸先生のご見解を掲載させていただきます。

今回はDFPPという1語だけでしたが、今後もいろいろと齟齬が出てきた段階で、学会全体として検討して参る所存です。

この度は阿岸先生及びアフェレシスマニュアルの発行元である株式会社学研メディカル秀潤社様にも大変にご迷惑をおかけ致しました。この場をお借りし、深謝申し上げます。

一般社団法人 日本アフェレシス学会
理事長 津田 裕士

阿岸鉄三先生のご見解

津田裕士理事長はじめ、日本アフェレシス学会の理事の方々には、特別のご配慮をいただき有難く存じております。わたしの立場を説明させていただきます。

Double Filtration Plasmapheresis=二重濾過血漿分離交換(法)の開発と命名は、わたし自身がおこなったものと自負し、誇りにも思っています。しかし、わたしは、この用語を他の人に使うように強制・要求してきたことも、するつもりもありません。二重膜濾過血漿交換という呼び方が、その適否は兎も角として、流布していることは知っていました。しかし、わたし自身が自分の命名以外の用語を使用することは忌避してきました。このたびの「アフェレシスマニュアル第3版、p15」の執筆に当たり、提出した原稿には、「二重濾過血漿分離交換」としたのですが、編集者から、「二重膜濾過血漿交換」が学会用語であると指摘されました。前述のような立場を説明し、「二重濾過血漿分離交換」のままにしたいと返答し、編集者からもわたしの立場を支持する旨の回答がありました。しかし、刷り上がったのは、「二重膜濾過血漿交換」であったので、異議を申し入れたのが、経緯です。自分のオリジナリティを尊重したいスタンスをご理解ください。

阿岸 鉄三